



ネパールの教育の実情知りたい

留学へ“飛び立て”!!

韓国でダンスの技術を磨く



留学への意気込みを語る、武庫川女子大付属高校3年の服部帆夏さん(右)と南明里さん(左)＝西宮市枝川町

若者に海外留学を促すキャンペーン「トビタテ！留学JAPAN」日本代表プログラム」に武庫川女子大付属高校の3年生2人が応募し、1人は大地震で大きな被害を受けたネパールで学校再建を手伝い、もう1人は韓国でダンスを学ぶ。それぞれの夢を膨らませ、未知の体験に挑む。

武庫川女子大付属高 南さん・服部さん 文科省など支援受け

このキャンペーンは2014年から始まった文部科学省と民間団体の協働事業。海外留学に意欲を持つ若者を支援し、奨学金を給付する。学生の主体性を重視し、留学先やプログラム内容を自分自身で決めるのが特徴だ。今回は全国1904人の中から501人が選ばれた。

同校から参加するのは、いずれも3年の南明里さん(17)＝大阪府豊中市＝と服部帆夏さん(18)＝西宮市。南さんは7月7日、3週間余りの計画でネパールに渡る。現地では保育所や学校を訪ねるほか、2015年のネパール大地震で被害を受けた学校再建の手伝いに携わる。

小学校の頃から教員になりたいと考えていた南さんは「ネパールの教育現場を見てみたい」と意欲を見せる。また、自分自身よりも年下の女性が結婚させられる「児童婚」にも関心を持っており、「発展途上の女子教育の実情を知りたい」とも話した。

一方、服部さんは12月から約1カ月、韓国へ。幼い頃からダンスに親しみ、高校生になると「Kポップ」に夢中。韓国ではダンスのレッスンを受けたたり、プロダンサーのステージを鑑賞したりして、自分の技術を磨きたいという。

中学校では病気で学校を休みがちだったが、ダンスを通して友人と仲良くなれた。将来、ダンスに関わる仕事に就くことを希望しており、「言葉はなくてもダンスで気持ちは伝えられる」と留学に期待を膨らませている。

柳